令和８年度第２回定例会

日　時：　令和８年７月９日（木）午後２時 30 分から午後４時
場　所：　中央図書館活動室２・３
出席者：　（図書館協議会委員）委員７名
（事務局）図書館長、企画運営担当１主査、総務係長、総務担当２名

会長　　これより多摩市図書館協議会規則第４条により令和８年度多摩市図書館協議会第２回定例会を開催する。今年度は１名委員の交代があり、本日新委員にご出席いただいているので、皆様自己紹介をお願いしたい。
（委員の自己紹介）

会長　　議題１　令和７年度多摩市立図書館事業評価（外部評価）について、事務局から説明をお願いする。

事務局　──資料１に基づき、説明が行われた──

会長　　事務局から説明のあった議題１について、質問・ご意見等があれば発言をお願いする。

会長　　今回の資料は、前回の定例会資料のうち「令和７年度多摩市立図書館事業計画実施報告」をもとにして作成されたと思われるが、「令和７年度事業計画」の項目が抜けているのではないか。前回の当該資料と突き合わせて確認しなければならず、不便さを感じた。今回の自己評価の表は昨年のものに比べると格段に見やすくなっているが、事業計画の部分が抜けていることによって、具体性が欠けてしまっている。また、反対に「令和７年度多摩市立図書館事業計画実施報告」の資料にはないが、今回の資料には入っている項目もいくつかあって、疑問に思っている。なにか調整はあったのか。例えば、「１－６　バリアフリーの推進」について、取り組み事項が１～４まであるが、前回の資料には３項目しかない。３つ目の取り組み事項「点訳者、音訳者、電子データ製作者等の計画的な人材養成」の項目はなかった。これは理由があるのか。

企画担当１主査　ここの部分は基本方針４の「施策４－３　ボランティア活動の促進」のところに項目としては重複して入っているが、今回評価項目に「１－６」を選んでいただいたので、それは前のほうに持ってきており、少し構成を変えている。

会長　　承知した。できれば、「令和７年度多摩市立図書館事業計画実施報告」をそのまま移行した資料づくりをしたほうがよい。
　では、評価項目の１つ１つについて確認していきたい。まず、「施策１－６　読書バリアフリーの推進」の評価について意見があればお願いしたい。

委員　　「視覚等の障がいがある方の読書を支援するため、障がい者等用情報機器の貸出を行った。」とあるが、機器とはどのようなものか。

企画運営担当１主査　プレクストークという機器で、デイジー図書を挿入して聞くものである。それを貸出用として、ご希望の方に貸出をしている。

委員　　視覚障がいのある方はよく持っているものなのか。

企画運営担当１主査　持っている方が多い。ただ、かなり高額にはなるので試しに使ってみたい方に貸出している。

委員　　我々は、そういうものがあること自体も知らないが、障がいのある方には知られているものなのか。また、宅配サービスの実施回数が７２回とあるが、以前から利用はそのくらいなのか。

企画運営担当１主査　宅配サービスの実施回数は多くなっている。コロナ後から落ち込んでいたが、最近、図書館として、高齢者施設や病院等に向けてPRしており、利用が増えている。

委員　　高齢者施設や多摩市内の病院はどこか。

企画運営担当１主査　介護施設の方が集まる場に図書館職員が参加してPRしたので、その場にいらしていた施設は含まれていると思う。担当の係長が本日不在なので、具体的にはわからない。

会長　　いまのPRについても、自己評価に記載しておいたほうがよいのではないか。

企画運営担当１主査　承知した。

副会長　　第二次多摩市読書活動振興計画に達成目標はあるのか。事業に対してその結果があって、評価しているというだけなのか。

企画運営担当１主査　方針ごとに評価指標を設けている。個々の事業の目標値はない。

会長　　今後、個々の事業の具体的な目標値を設ける予定はないのか。各館、係の事業に対し、数値的な目標はないのか。

図書館長　　事業が多いので、個々の事業ごとに目標値を設けることは難しい。

副会長　　職員の努力で効果が上がる事業については目標を設けたほう

がよいのではないか。

委員　　目標を設定するというのは、「このイベントには○人の参加を目指す」というようなことか。

副会長　　例えば、「この講座には○人の参加を目指す」という目標であれば、それに対し結果がどうであったかなど、各施策の効果を測る目安になるのではないか。

会長　　今年度は音訳資料を５件は作製するとか、貸出については昨年度比５％増やすなどの目標設定はできるのではないか。

委員　　音訳を担う行政協力員の養成講座はホームページで参加者を募集しているのか。

企画運営担当１主査　　そのとおりである。いまはすでに締め切って、選考に移っている段階である。

図書館長　　今回は３５名ほどの方から応募があった。そのあとに面接などもあり、継続して行政協力員になっていただけるのかの確認をして、若干名減っているが、次年度以降も引き続き行政協力員として協力していただけるようにご案内していきたいと考えている。

会長　　その方々が作製された資料はまだできあがってはいないのか。

図書館長　　まだ、養成のために募集して選定しているところなので、活動は始まっていない。

企画運営担当１主査　　実際に活動いただくのは再来年くらいからになる。現在、すでに活動されている音訳の行政協力員は２０人くらいである。

図書館長　　現在、活動いただいている音訳の行政協力員の方々は高齢の方が多く、実際に活動いただいているのが１０人くらいである。新規の方を養成していかないと事業が立ち行かなくなると考えている。

委員　　行政協力員の方が１人で１つの作品を完成させるのか。

企画運営担当１主査　　「ランナーズ」という雑誌（月刊誌）の音訳資料を毎月作製しているが、雑誌は速報性が大切なので、１冊について４人で分担してなるべく早く作製できるようにしている。本については、１人で１つの作品を作製いただくので、３カ月～半年程度かかる。

委員　　行政協力員はどうやって募集しているのか。

図書館長　　ホームページやチラシ、ポスター、たま広報、やまばと通信などで広報した。

委員　　音訳の行政協力員になるのに、何か資格はいるのか。

企画運営担当１主査　　図書館の養成講座を受講していただくだけでよい。

図書館長　　養成講座を受講したあとに、試験を受けていただく。

会長　　行政協力員になったら、その証の ID カードなどはあるのか。

企画運営担当１主査　　名札をお渡ししている。

会長　　今回、養成講座の途中経過は広報しないのか。新たな周知にもつながると思うが。

図書館長　　現在は考えていない。

委員　　音訳の行政協力員は定期的に募集するのか。

図書館長　　次は数年後になると思う。今回の募集・選考で新たな行政協力員が生まれるので、毎年募集するというわけではない。

会長　　自分たちの参加している養成講座が広報されれば参加者の方々の励みになるし、行政側としてもよい広報になるのではないか。新規人材への PR や動機付けにもなると思う。

副会長　　養成講座はこんなふうにやっていますよと、講座の風景を後ろから写真に撮って広報に使ってもよいのではないか。

図書館長　　検討したい。講座を進める中では、残念ながら途中で辞める方もいると予想しており１０名程度は行政協力員として養成できたらと考えている。

会長　　そのほか、自己評価のところの表現ぶりなど何かご意見はないか。事務局に確認したいが、取組み事項ごとに外部評価をしないといけないのか。

企画運営担当１主査　　取組み事項ごとではなく、施策ごとに外部評価をお願いしたい。お話の途中だが、先ほどのご質問にお答えする。宅配サービスの PR 先は多摩中央病院、案内をしたのは、発達支援室、高齢支援課、地域包括支援センターのケアマネージャーの勉強会などであった。

委員　　冬のスペシャルおはなし会やバックヤードツアーで手話付きで実施したと書いているが、広報の段階で手話付きであると PR していたのか。

企画運営担当１主査　　おはなし会については、確認する。バックヤードツアーは、参加者を募集した際、抽選となり、当選した当事者の方から手話通訳の要請があったので付けたという経緯である。

委員　　手話通訳は外部の方にお願いしているのか。

企画運営担当　障害福祉課に依頼し、派遣いただいた。
当１主査

会長　この項目についての評価としては、おおむね問題はないが、自己評価にあたっての様々な経緯などについて入れてもらえるとより良いということを申し上げたい。「施策１－６　読書バリアフリーの推進」の評価については、以上とする。

次に、「施策２－１　本に親しむ機会の充実」の評価に移る。おはなし会については回数についても、参加者の人数についても図書館の努力が感じられる。昨年度比でも多くなっているのではないか。子どもたちにとっては言葉に触れる機会として、おはなし会に参加してもらうことが将来の読書活動につながるので、とてもよかったと思う。

企画運営担当　おはなし会については、回数も参加者も昨年度より増えている。
当１主査

会長　市内の新築マンションの影響はあるのか。

企画運営担当　関戸エリアでは、影響があると考えている。
当１主査

委員　関戸エリアでは、子どもが増えている。子どもたちを見ていると、家庭で読み聞かせをしてもらっている子どもとそうでない子どもではかなり差があると感じている。

委員　保護者だけではなく、図書館職員のような保護者ではない人に読んでもらうことに意味があると思う。来館時に、あかちゃんおはなし会を見かけたことがあるが、赤ちゃんがちょっと緊張している様子で、よい刺激になっているのではないかと感じた。

委員　図書館だけではなく児童館にも出張しておはなし会をやっているようだが、職員がとても忙しくなってしまうのではないか。
また、公共施設に絵本を置いていることはとてもよいと思う。ときどき入れ替えをしてもらえるとさらによいと思う。

委員　アクアブルーにある本は借りられるのか。

企画運営担当　借りることはできない。その場で読んでいただくためのものである。
当１主査

委員　とてもよい取り組みであると思うので、もっと PR したほうがよい。これから夏休みなので、子どもたちの利用も増えると思う。

委員　アクアブルーのどこに置いてあるのか。

委員　　３階の事務所のところではないか。

会長　　それぞれの公共施設にお願いして設置しているのか。

図書館長　　それぞれの施設と連携しながら置かせてもらっている。おもに待合のようなところに置いている。

会長　　置いてあるだけでなく、その周知があるとよい。図書館に本があることは誰でもわかるが、ほかの公共施設にも本があることは知らない人も多いと思う。

委員　　親が何か手続きしているときに子どもが待っている間に読めるようなイメージか。

図書館長　　そのようなイメージである。

企画運営担当１主査　　少し戻るが、先ほどの手話つきおはなし会の質問についてお答えする。冬のスペシャルおはなし会が手話付きであることは、事前に PR していたとのことである。

副会長　　イベントの際にアンケートを実施したとのことだが、子どもたちはどのように感じたのか。そのアンケート結果はどのように反映されるのか。

図書館長　　担当が不在のため、後ほど確認する。

会長　　アンケート結果については、自己評価に付け加えていただきたい。開館以来、多数のイベントを開催してきたが、図書館側としてその効果をどのように感じているか。

図書館長　　市民協働イベントを通じては、市民の皆さんが自分たちでイベントを主体的に運営するという意識が出てきていると思う。２階はお話できるフロアなので、これまでの図書館とは違って、親子で過ごしやすい図書館になっていると思う。

会長　　そういう部分も自己評価に入れるとよい。天文講座の中高生の参加者数は非常に多かったようだ。

企画運営担当１主査　　お話の途中だが、先ほどの質問にお答えする。公共施設に置いている絵本の件について、アクアブルーは３階のキッズルーム、総合福祉センターは３階の図書コーナーに置いている。なお、図書館 HP に場所を掲載して、周知している。

会長　　「施策２－１　本に親しむ機会の充実」の評価については、以上とする。

次に「施策３－２ 多様な情報源を活用したレファレンスサービスの提供・充実」について、なにかご意見はあるか。

オンラインデータベースをやまばと通信で紹介して、その後

利用は増えているのか。

企画運営担当当１主査　データベースの利用回数の数え方がその業者によって違うので、明確には測れないかもしれない。確認する。

会長　利用は、職員がログインをしてから利用するのであれば利用状況がわかるのではないか。

企画運営担当当１主査　データベースはIPアドレス認証のものがほとんどなので、職員が介在するタイミングがなく窓口ではわからない。

副会長　データベースは全館で使えるのか

企画運営担当当１主査　ほぼ全館で使えるが、１アクセスしか契約していないので、どこかの館で使っていたら同時には使えない。

副会長　レファレンスについて、図書館のホームページで公開しているものや国立国会図書館のレファレンス協同データベースに登録したもの以外にも、もっとたくさん受け付けていると思うがその数値はどこに書いてあるのか。

企画運営担当当１主査　令和７年度については、現在集計中である。令和６年度については、相談受付件数は全館分で、単純な「この本はどこにありますか」というような質問も含めて、９３，３４１件である。

副会長　レファレンスの分類の仕方はいろいろあると思うが、全体として万単位の数が見えたほうが図書館の努力が分かるのではないか。

会長　ぜひ９万件という数値は出してもらいたい。この項目については特にほかにご意見がなければ以上とする。

次に「施策４－３　ボランティア活動の促進」の評価に移る。なにかご意見はあるか。市民協働イベントについては、積極的に市民の皆さんが動いてくださっていると思うが、図書館側としては現在の実施件数が職員の負担的に最大限の数だと考えているのか。

図書館長　各イベントの準備・運営の状況を見ながらにはなるが、今後は実施回数を増やすことも考えられる。

会長　準備や運営をもっと市民にまかせて、職員は見守るということでもよいと思う。

委員　現在の市民協働イベントの運用を見ると、職員の負担が大きいと感じる。図書館側の関わりがかなり大きいので、今後継続していくには運用方法を考えて、見直していく必要があると思う。植栽については、どこまでボランティアにお願いしているのか。せっかく協力してくださっているので、冷たいお茶を出

すなどもあるかと思う。

図書館長　　植栽のボランティアの方には年度末に集まっていただき、感謝する会を開いたりしている。

委員　　先日、ある市民協働イベントが台風で延期となった。開催の可否を決める最終的な責任を図書館が持っているが、市民協働イベントでは、市民と共催であるため責任の所在が難しい。共催する市民の方の希望で開催したとしても、怪我人が発生した場合、図書館の責任になってしまう。最終的な判断をどうするのか、図書館と市民の役割分担を最初に決めておいたほうがよいのではないか。

会長　　市民協働イベント開催時の事故について、市としてなにか対策はあるのか。

図書館長　　図書館でのイベント中の怪我は保険対応などもあると思う。今回の台風については市全体での判断もあり、一方で市民協働イベントなので主催の市民にも相談しながら進めた。事故の恐れがあれば、市としては中止の判断をせざるを得ない。

会長　　安心・安全に開催できることが大前提なので、市としては最悪の場合を想定せざるを得ないことはわかる。先日の台風の日は、自分が勤めている大学も休校の対応を取っていた。

副会長　　市民協働イベントは市民と図書館の共催ということでよいのか。

図書館長　　そのとおりである。

委員　　植栽ボランティアの方は保険に入っているのか。

図書館長　　入っている。

会長　　市がボランティア活動について保険に入っていることを公募するときに PR すれば、市民も安心して参加しやすくなるのではないか。

ほかにご意見がなければ、「施策４－３　ボランティア活動の促進」の評価は以上とする。

全体を通して、ほかにご意見がなければ、図書館協議会としての外部評価は以上とする。

次に、「報告１　多摩市物価高騰化対策「多摩市本のまち書店利用券」の実施報告」について、事務局から説明をお願いする。

事務局　　──資料２に基づき、説明が行われた──

会長　　ご意見があればお願いしたい。

副会長　　この事業が終了して、その後の書店利用に変化はあったのか。例えば、親子層の利用が増えてきたなどの事後的な波及効果があるのなら、それがわかるとよりよいと思う。

図書館長　　その後の書店利用の変化については把握していないが、第二次多摩市読書活動振興計画では、基本方針２の評価指標で子どもの読書状況の調査をすることになっており、その変化については確認する。

会長　　書店利用券を配付したときに、子どもに感想を書いてもらい図書館に投函できるような書面を同封しておくとよりよかったと思う。

そのほかにご意見がなければ、報告１については終了とする。

これで令和８年度多摩市図書館協議会第２回定例会を閉会する。

図書館長　　次回の図書館協議会は、令和８年８月１９日（水）に開催する。詳細は別途通知する。